

第1回 広域ごみ・汚泥処理施設候補地選定委員会まとめ

《開催日》 平成19年11月21日（水）午後2時30分～午後5時30分

《場 所》 豊岡市役所第4会議室

《出席者》 委員：寺嶋均、森住明弘、八村智明、日下部昌男、吉田勲、定元之雄、
狩野昇、山田政五郎、井上政信、中田雄久、久保田八千代、
西垣好博、足田仁司 （敬称略）

組合：中貝宗治（管理者）他施設整備課職員8名 合計21名

《内 容》 … 委員会次第

1 開 会

2 委員委嘱

3 管理者挨拶

4 委員自己紹介

5 正副委員長選任

委員長 寺嶋 均 氏 （財団法人 全国都市清掃会議技術部担当部長）

副委員長 日下部 昌男氏 （豊岡環境衛生組織連合会 会長）

6 報 告

(1) 候補地選定委員会について

(2) 広域ごみ・汚泥処理施設整備事業の概要について

(3) 広域ごみ・汚泥処理施設整備基本計画について

(4) ごみ処理の現状について （以上、事務局より一括説明）

質疑内容

Q： 公設民営方式とは？

A： P F I の一種。資金を行政が調達し、設計・建設・及び15から20年間の運営管理を一貫して発注する方式。行政は、設計・建設の監理と運営期間における施設運営状況等について監視する立場である。

Q： 排ガス規制値の単位について説明して欲しい。

A： ppm は 100 万分 1 (1/1,000,000) であり、n g は 10 億分 1 (1/1,000,000,000) グラムである。N は ノルマルと呼び 0℃・1 気圧の状態をいう。K 値は、硫黄酸化物の規制における煙突高に関連した係数である。

Q： 委託期間以降の運営はどうなるのか。

A： 期間終了前の段階で再入札等を行う。

Q： 行政の関与はないのか。

A： 委託期間内の運営について監視する。

Q： 実際、当初契約時の業者以外の業者が運営を引き継ぐことは有りうるのか。

A： 殆どの場合、同じ業者が引き続き運営することになると予想される。

Q： どの位のメーカー数があるのか。

A： ストーカ炉方式では10社以上あると思う。

Q： 事務局の説明では、近年、流動床方式は無いとのことであるが、しかし最近整備された加古川は流動床式である。

A： 流動床方式のプラントを販売するメーカーは、能勢町のダイオキシン問題の影響もあり現在は無い。

Q： 危機管理及び、トラブルの対応は。

A： 事前に危機管理マニュアルを作成する。そして運転中に異常が生じれば、施設内の中央制御室に警報が流れ、マニュアルに沿って対応する。日々の運転状況については、監視委員会を設けてチェックするとともに、排ガスの排出状況などを、施設来場者にわかりやすい場所に表示する。

意見等

- ・ 報告事項で出された質疑応答について、委員各位の理解が重要である。ダイオキシンや公設民営方式など、基本的な事項が理解できない状況で候補地選定した場合、住民の疑問に対し説得力のある説明ができない。
- ・ 事務局より提出された資料についても、「行政の資料は完璧だ」という認識を避け、十分精査しなければならないという意識が必要である。
- ・ ごみ処理や行政手続きなど、選定作業に必要な基礎的、専門的な知識を委員が事前に習得するため、次回委員会までに学習会を実施してはどうか。名目だけの選定委員会であっては、地域住民を安心させることは非常に難しい。
- ・ 我々は様々なリスクと隣り合わせに生活している。リスクをゼロにする為には多大な経費が必要であり、過度の投資は税金の無駄遣いという議論もある。リスクの度合いと経費の関係などについて住民に対し、十分な説明が必要だ。
- ・ 机上の学習会だけでなく、現在施設を有する地域住民との意見交換も必要だ。

7 協 議

(1) 委員会の進め方について

第2回委員会に日程変更

(2) 施設候補地の選定について

8 その他

(1) 次回の開催について

選定委員会学習会： 平成19年12月3日（月）午後1時30分より

場所 … 未定

第2回選定委員会： 平成19年12月19日（水）時間・場所 … 未定

9 閉 会

《特 記》 「次第6 報告」の前に、本委員会を非公開にすることについて、公開にすべきという議論がなされ、委員会設置要綱改正を含めた今後の委員会運営について、組合に結論を委ねられた。